# (1) 図書館、博物館、アーカイブズ Library, Museum and Archives

## 1 中央図書館(総合学術情報センター) Central Library



地下 2 階地上 4 階建て、図書 2,813,481 冊、雑誌 16,745 種の蔵書数を誇る (2018 年 3 月末現在)。

所蔵資料は一般図書、参考図書、研究 図書、明治期図書、新聞・雑誌、マイク 口資料、AV資料、貴重書・古書資料、 特殊コレクションなど多岐にわたる。

学内には他に高田早苗記念研究図書館、戸山図書館、理工学図書館、所沢図書館、および学生読書室などもある。

中央図書館は早稲田大学創立 100 周年 記念事業として旧戸塚球場・安部球場の

跡地に建てられたが、その下の大地には古くは縄文時代から江戸時代までの「**下戸** 塚遺跡」が眠っている。

※図書館への入館には、原則として学生証・教職員証・図書館カード・早稲田カード・校友会カード・WASEDA サポーターズ倶楽部会員証、エクステンションセンター会員証等が必要となります。

# 詳細は(03-3203-5581) へお問い合わせください。

# ② 坪内博士記念演劇博物館(5号館)



# The Tsubouchi Memorial Theatre Museum

※新宿区指定有形文化財(建造物)

近代日本文学および演劇芸術の先駆者・開拓者である坪内逍遙博士の古稀(70歳)と『シェークスピヤ全集』全40巻の翻訳完成を記念して、1928(昭和3)年に設立された。

主要コレクションは錦絵 47,000 枚、 舞台写真 200,000 枚、図書 150,000 冊、 その他衣装・人形などの演劇資料 52,000 点を合わせて数十万点にも及び、"演劇 の歴史" そのものである。

**館内**は1階:シェイクスピアの世界、六世中村歌右衛門記念特別展示室、和書閲覧室、2階:逍遙記念室、民俗芸能、企画展示室Ⅰ・Ⅱ、3階:日本の演劇史(古代、中世、近世、近代、現代)に分かれて展示がされている。

なお**建築様式(意匠)** は坪内博士の発案でエリザベス朝時代 16 世紀イギリスの劇場「フォーチュン座」を模して、今井兼次らの手で設計された。建物自体が劇場資料となっており、建物正面にあるラテン語「Totus Mundus Agit Histrionnem」(「全世界は劇場なり」シェイクスピア時代のロンドン・グローブ座の看板にあった言葉) は有名である。

※入場無料。

詳細は同博物館のリーフレットを参照。

Tel: 03-5286-1829 E-mail: enpaku@list.waseda.ip

#### 3 會津八一記念博物館(2号館・旧図書館) Aizu Museum



#### ※東京都選定歴史的建造物

早稲田大学の東洋美術研究 者であり歌人・書家でもあっ た故會津八一博士を記念して、 1998年2号館(旧図書館)に設 置された。

主要コレクションは會津八一コレクション、會津八一の書、日本近現代美術作品、富岡重憲コレクション、アイヌ民族の文化、考古資料。

1階は企画展示室と富岡重 憲コレクション室、大隈記念 室(大学史資料センター)があ り、2階は常設展示室として、

明器、俑、鏡、壺、鼎などの東洋美術品、近代絵画、書画、仏像などの美術品、考古出土資料、アイヌ民族資料、寄贈資料などを展示している。

「明暗」(横山大観・下村観山合作)、「羅馬使節」(前田青邨) などの貴重な美術品を所蔵している。

※入場無料。

詳細は同博物館のリーフレットを参照。

Tel: 03-5286-3835 E-mail: aizu@list.waseda.ip

## 4 大隈記念室(2号館 1階) Okuma Memorial Room



早稲田大学創立 125 周年を 記念して、創立者大隈重信の 事績を明らかにするとともに、 建学の精神を体現する場とし て、2 号館 1 階の常設展示室が リニューアルされた。

資料展示は、大隈の事績を 佐賀藩士時代、明治政府での 近代化政策の推進、学問の独 立(東京専門学校の開校)、政 党政治、二度の内閣総理大臣、 文明と教育(文明運動)の6つ のカテゴリーに分けて展示し ている。加えて総長緋のガウ

ン、大礼服姿石膏像、遭難時衣服・靴・帽子、模型、演説レコード(音声)など、 多面的な資料により歴史を直接体験できる工夫がされている。

※入場無料。

詳細は同記念室のリーフレットを参照。 Tel: 03-5286-1814 E-mail: archives@list.waseda.jp

# 5 大学史資料センター、レファレンスルーム (79 号館、東伏見 STEP22 — 5 階) Waseda University Archives



大学史資料センターでは、以下の事柄 を将来に伝承することを目的に、早稲田 大学の歴史、創立者大隈重信および関係 者の事績、比較大学史(高等教育)に関 するレファレンス業務を行っている。

※詳細は同センターのリーフレットを参照。 Tel: 042-451-1343 E-mail: archives@list.waseda.jp

# (2) 文化施設 Cultural Facilities

## 6 大隈記念講堂 Okuma Auditorium

※国の重要文化財





大隈記念講堂は、早稲田大学創立者である大隈重信の没後、大隈を偲びその業績を記念する建物として計画・施工され、ゴシック様式で演劇にも使える講堂として1927 (昭和 2) 年 10 月に竣工した。

設計には本学建築科の創設者である佐藤功一とその弟子で建築音響学の先駆者である佐藤武夫があたり、構造設計を担当したのは後に日本電波塔(東京タワー)の設計を手がけ耐震構造学の父と言われた内藤多仲で、音響設計には黒川兼三郎もかかわった(日本初の科学的音響理論に基づいた設計)。

早稲田大学創立 125 周年記念事業の一環として大規模な改修工事が行われ、歴史的な意匠を継承しながら、冷暖房の完備、映像・音響システム、情報ネットワーク、同時通訳システムなど性能を飛躍的に向上させた多機能型文化ホールとして 2007 (平成 19) 年 10 月 1 日に竣工し、早稲田文化発信の拠点と象徴になっている。また同年 12 月 4 日には文化財保護法に基づいて国の重要文化財 (建造物) に指定された。

※座席数は 大講堂:1121席(車椅子用2席)、小講堂:300席(車椅子用1席)。

#### 7 小野記念講堂 (27号館 地下2階) Ono Memorial Hall



※座席数は 標準:206 席、最大236 席。

小野記念講堂は、早稲田大学の学術研究・教育、文化・芸術の成果を内外に示す拠点施設の一つとして、7号館にあったものを移転した。

「文化活動の成果を発表 し、さらに世界の文化と交流 を図るためのホール」という 理念を具現化した施設で、映 画・演劇・講演等に適した映 像・音響システムに加えて、 広い舞台袖、楽屋や控室も な備えた充実した文化施設で ある。

# **8** 125 記念室 (26号館 10階) 125th Anniversary Room



125 記念室は、早稲田大学 創立 125 周年にあたり新世紀 を睨んだ正門前歴史的景観 ゾーンとして、2006 年 2 月 に竣工した大隈記念タワー (26 号館)に新に設置された 本格的な展示室で、主に美術 品や貴重品の展覧会が開催されている。入場無料。

展覧会等の情報照会は以下 へ。

文化企画課 Tel.03-5272-4784

E-mail: art-culture@list.waseda.jp

なお大隈記念タワーは、125 尺の大隈講堂の時計塔が早稲田大学の 125 年の歴史、すなわち「第1世紀の早稲田」の象徴であったのに対し、この 125 尺の 2 倍である 250 尺 (75.75m) の塔は「第2世紀の早稲田」を象徴しており、大隈講堂を基準としたキャンパスの基軸に合わせて、対峙した設計になっている。

※創立者大隈重信が「人生 125 歳説」を唱えていたことから、早稲田大学では「125」という数字が特別な意味を持っている。

# 9 ワセダギャラリー (27 号館 地下 1 階) Waseda Gallery



ワセダギャラリーは、学内外に早稲田大学の歴史と未来を発信する新たな拠点として、2005年4月にオープンし、2014年9月に移転、リニューアルオープンした。

広さ約90㎡のスペースは、 写真・絵画、造形等の小規模 の企画展示用のスペースとし て活用されている。

企画展示の情報照会は以下 へ。



文化企画課 Tel.03-5272-4784 E-mail: art-culture@list.waseda.jp

# (3) 銅像(人物顕彰) Statures and Reliefs ※大隈綾子銅像、田中穂積銅像は(vol.2 大隈庭園編)に掲載。

# **⑪** 大隈重信全身像 Statue of Shigenobu Okuma (The Founder of Waseda University)

※新宿区指定有形文化財(彫刻)



大隈重信は早稲田大学の創設者で、「**早稲田大学建学** の父」といわれている。この銅像は大隈記念講堂と共 に早稲田大学の象徴となっている。この大隈銅像と大 隈講堂、あるいは両者を遠近法で重ね合わせた風景は それだけで早稲田大学と分かるほど有名である。

大隈重信(1838-1922年)は肥前国(佐賀県佐賀市) 出身で、若い頃には蘭学を修め、さらに長崎ではフルベッキから英学、新約聖書、米国独立宣言を学び大きな影響を受けており、後の早稲田大学の教育へと続く大きな流れとなっている。

一般には大隈は早稲田大学の創設者、近代日本の 設計者として有名であるが、詳細は次頁および大学 公式ホームページの大学案内にある「創設者 大隈重 信 | を参照されたい。

銅像は2代目の大隈銅像で、彫刻家朝倉文夫の力作。1932(昭和7)年に早稲田大学創立50周年と大隈

重信没後10周忌に合わせて建立された。

キャンパスの中央から、早稲田で学ぶ多くの学生たちを見守り、また護っている。

# ◆ 大隈講堂内大隈重信全身像 Statue of Shigenobu Okuma in Okuma Auditorium



1907 (明治 40) 年に早稲田大学創立 25 周年と大隈 重信の古稀を記念して設置された**初代**の大隈重信像 である。製作は小野惣次郎、鋳造は鈴木長吉である。

昭和初頭まで、この銅像がキャンパスの中央に設 置されていた。

現在早稲田キャンパスに立つ角帽とガウン姿の銅像は**2代目**であり、1932 (昭和7)年に早稲田大学創立50周年と大隈重信没後10周忌に合わせて、教育者らしい姿で建立された(朝倉文夫の作)。早稲田大学の各キャンパスには、大隈重信の胸像が設置されている。

なお 1916 (大正 5) 年に芝公園に設置された衣冠 東帯姿の銅像があったが、戦時中の金属供出により 現存しない (朝倉文夫の作)。また 1938 (昭和 13) 年 に大日本帝国憲法発布 50 年を記念して、大隈重信

銅像が国会議事堂内に設置されている(朝倉文夫の作)。

また**初代**の塑像原型 (レプリカ) が早稲田大学の大隈記念室に、初代を模した銅像が佐賀市大隈記念館に設置されている。

#### 大隈重信について

大隈重信は早稲田大学の創設者であり、近代日本国家の設計をした人物であるが、その業績は大きく明治政府の官僚、政治家、教育者に整理することが出来る。

官僚として、外国官の官吏、大蔵大輔、民部大輔、参議、大蔵卿を務め、駐日英国公使パークスとの外交交渉、通貨単位「円貨」の制定(貨幣制度の改革)、会計検査院の創設、郵便事業の創始、電信の架設、鉄道の施設(新橋-横浜間)、太陽暦の導入など、国家の骨格となる事業を推進した。

また**政治家**としては、1881年の「明治十四年の政変」で下野してからは政党政治の実現をめざし立憲改進党を創設、外務大臣、内閣総理大臣(第1次・第2次)などを歴任し、国のために力を尽くした。

教育者としては早稲田大学の創設が最も有名だが、高等教育・専門教育の一方で、「道徳的人格を備えなければならぬ。」「教育は人格の養成を根義とする。」など、繰り返し説いていたことはあまり知られていない。

## 12 東洋小野梓胸像 Statue of Azusa Ono



小野梓 (1852-1886 年) は、「**早稲田 大学建学の母**」といわれ、東京専門 学校(現、早稲田大学) 創立の中心 人物であり最大の功労者である。

土佐国(高知県宿毛市)出身で、司法省、会計検査院を経て「明治十四年の政変」による大隈の下野に行動を共にして、1882(明治 15)年4月には立憲改進党結成に参加し、10月には東京専門学校を創立したが、肺結核を悪化させ33歳という若さで死去した。

胸像は本山白雲の作で、没後 50 年を記念して冨山房社長坂本嘉治

馬により寄贈された。当初は大隈庭園の中に建立されたが、1957年に早稲田大学 創立75周年を記念して7号館に「小野梓記念講堂」が設置された時に講堂内に移設 され、2007年の創立125年記念事業として「小野梓記念館」(27号館)が建設され、 小野梓記念講堂も移転した際に、再び移設されて現在に至っている。

早稲田大学ではこの小野梓の銅像を建立して顕彰すると共に、大隈記念講堂に次 ぐ講堂を「小野記念講堂」として、長くその功績を後世に伝えようとしている。

#### (13) 高田早苗全身像 Statue of Sanae Takata



高田早苗 (1860-1938 年) は、早稲田大学 初代学長、第 3 代総長 (1923 ~ 1931 年) である。1901 年法学博士、1928 年帝国学士院会員。「早稲田の四尊」(しそん)のリーダー的存在であった。

江戸・深川(東京都江東区)の出身で、東京大学卒業。小野梓と知り合ったことから、1882 (明治15)年に大隈の立憲改進党、東京専門学校創設に加わった。また1887~1890年には読売新聞主筆も務めた。

高田の業績は、式服・式帽、校旗の発案、

教旨の制定、大隈講堂の建築様式の指定など、すべて大学の基礎や骨格に関わるものが多い。授業では憲法、行政法、外交史、貨幣論、租税論などを講じていた。

一方で政治家としては、1890 (明治23)年の第1回衆議院議員総選挙に当選(通算6期)、1897年第1次大隈内閣で文部省参事官、1915年8月には第2次大隈内閣で文部大臣を務めたほか、同年5月には貴族院議員にも勅撰される。

彫刻家藤井浩祐の作で、1932 (昭和7) 年に早稲田大学創立50 周年記念として校 友会により建立された。

## 14 坪内逍遙銅像 Statue of Shoyo Tsubouchi



坪内逍遙(1859-1935年)は、東京専門学校(現、早稲田大学)の文学科設立の中核であり、日本近代文学の先駆者・開拓者である。特に演劇芸術の向上発展に尽くした功績は高く評価されている。「早稲田の四尊」(しそん)の一人でもある。

美濃国(岐阜県美濃加茂市)出身で、東京大学文学部在学中から高田早苗と親交の深かったことから、1883(明治16)年に東京専門学校の講師ととなり、その発展・充実のために尽力した。また文芸誌『早稲田

**文学**』の創刊に貢献し、早稲田中学校設立にも参画するなど、文芸活動ばかりでなく教育活動にも熱心であった。

坪内博士記念演劇博物館(通称:演劇博物館、演博)は、坪内逍遙の古稀(70歳) と『シェークスピヤ全集』全40巻の翻訳完成を記念して設立されており、当該博物館の建築様式(エリザベス朝時代16世紀イギリスの劇場「フォーチュン座」も坪内の発案によるものである(設計は今井兼次ら)。

また「**早稲田大学坪内逍遙大賞**」は、坪内の精神をひろく未来の文化の新たな創出につなげたいとの願いから制定された。

銅像は彫刻家長谷川栄作の作品で、1962 (昭和 37) 年に演劇博物館創立 70 周年を記念して建立された。握手をすると早稲田大学に合格するとの噂もある。

#### 15 春城市島謙吉像 Statue of Shunjo Ichijima



市島謙吉(1860-1944年)は、「早稲田の四尊」の一人であり、早稲田大学初代図書館長として、和漢の古籍収集など大学の中核となる図書館の整備・充実に尽くした。

越後国(新潟県新発田市)出身で、1882(明治15)年に東京大学を中退して大隈重信の立憲改進党の設立および東京専門学校の創設に参加、その後郷里で新聞社の設立、1891年に読売新聞社主筆、1894年から衆議院議員(3期)を経て、1902(明治35)年に早稲田大学初代図書館長に就任し、日本図書館協会初代会長も務めた。また高田早苗との絆が強かったことから、早稲田大学の理事、監事としても高田を補佐し、学苑拡張の資金集めなど経営面の貢献も大きかった。一方で市島は随筆家(号・春城)としても20冊以上の著作を残している。

銅像は市島生誕150周年を記念して、2010年に総合学術情報センター2階ホールに建立された。作は櫻庭裕介(文化財修復)。

## 四尊について

四尊(しそん)とは、早稲田大学創立の中心的人物である大隈重信(1838-1922年)と小野梓(1852-1886年)を本尊に喩えたときに、早稲田大学草創期の基礎を築いた功労者である高田早苗(1860-1938年)、天野為之(1861-1938年)、市島謙吉(1860-1944年)、坪内逍遙(1859-1935年)の4人を称えた言葉である。

特に高田早苗、天野為之、市島謙吉は、早稲田大学建学の母である小野梓の主宰した「鷗渡会」(おうとかい) 7人のメンバーで、当時の最高のインテリ青年たちであった。

#### 早稲田の校長、学長、総長とは・・・?

東京専門学校時代は、校長が学校の最高責任者であった。1902(明治35)年に早稲田大学と改称後、1907(明治40)年に総長・学長制を新設し(初代総長は大隈重信、初代学長は高田早苗)、1923(大正12)年には大隈の死去を受けて総長制に一本化し、今日に至っている。

#### 16 平沼淑郎銅像 Statue of Yoshiro Hiranuma



平沼淑郎 (1864-1938 年) は、早稲田大学第 3 代学 長で、「**商学部の父** | と呼ばれている。

美作国 (岡山県津山市) 出身で、東京大学卒業。 経済学者、法学博士。

1923 (大正 12) 年から 1938 (昭和 13) 年の 15 年間 第 2 代商学部長を務め (初代は田中穂積、後に第 4 代総長)、商学部の基盤を確固たるものにした。

昭和10年に商学部校舎の老朽化を憂えた商学部OBが平沼を会長に「商学部校舎改築促進会」を結成し、大学部商科および商学部OBからの寄付金だけで商学部校舎が新築された。しかし平沼は新校舎の完成を目前にして死去した。

胸像は大隈重信銅像と同じ彫刻家朝倉文夫の作で、1938 (昭和13) 年に商学部長の功労を称えて商学部校舎改築促進会により建立された。

なお平沼騏一郎(第35代内閣総理大臣、枢密院議長)は実弟である。

#### 1 塩沢昌貞銅像 Statue of Masasada Shiozawa



塩沢昌貞(1870-1945年)は、早稲田大 学第4代学長、第2代総長である。大隈 重信の死去に伴い、総長・学長制が総長 制に一本化され後継の第2代総長に就任 した。

茨城県水戸市出身で、東京専門学校英 語政治科(現、早稲田大学政治経済学部) を主席で卒業、アメリカ・ウィスコンシ ン大学(Ph.D.)、ドイツ・ハレ大学、ベ ルリン大学に留学した。

大隈重信の知恵袋と呼ばれ、また東京 専門学校生え抜きとして期待の星でも あった。本学卒業生の教授第1号、1909 (明治42)年に卒業生の法学博士第1 号、1911 (明治44)年に大学部政治経済 学科・専門部政治経済科長、1934 (昭和 9)年に卒業生の帝国学士院会員第1号、 1943 (昭和18)年に最初の定年退職者と もなっている。

胸像は大隈重信銅像と同じ彫刻家朝倉

文夫の作であり、1940 (昭和 15) 年に塩沢の古稀と政治経済学部長の功績を称えて 建立された。

#### 18 安部磯雄胸像 Statue of Isoo Abe



安部磯雄 (1865-1949 年) は「早稲田野球の生みの親」(野球部創設者) であり、早稲田大学野球部の初代部長 (1901 年) である。また「日本野球の父 | とも呼ばれる。

1905年には日本野球史初の海外遠征を行い、野球の母国アメリカで試合を重ねながら、野球の技術や練習法、指導法を日本に持ち帰った。

現在総合学術情報センターのある場所は かつて安部が設置した早稲田野球の聖地 「戸塚球場」があった。没後その功績をた

たえ「**安部球場**」と名称を改められ、多くの熱戦が繰り広げられ人々に親しまれた。 東京六大学野球連盟初代会長 (1930 年)、日本学生野球協会会長 (1946 年) なども 歴任した。1959 年に日本野球殿堂入り (特別表彰)。

銅像は武石弘三郎の作。

※19 26 27 もあわせて参照されたい。

#### 19 飛用穂洲胸像 Stature of Suishu Tobita



飛田穂州 (1886-1965年) は「学生野球の 父」と言われ、早稲田大学野球部の初代監督 (1919-1925年)で、早大野球部の黄金期を築いた。選手時代は二塁手であり、第5 代主将も務めた。

「最後の早慶戦」の実現に奔走したことでも有名である。また「一球入魂」は飛田の言葉である。1960年に日本野球殿堂入り(特別表彰)。銅像は菊池一雄の作。

※18 26 27 も合わせて参照されたい。

# (18 19 26 27) 早稲田野球の記念碑 4 点 Four Monuments of Waseda Baseball



画像左から、

- 77 早慶戦百周年記念碑
- 19飛田穂洲胸像
- 18安部磯雄胸像
- 26戸塚球場・安部球場の碑

早稲田野球の聖地を記憶にとどめるための記念碑群である。

#### ② 會津ハーレリーフ Relief of Yaichi Aizu



會津八一 (1881-1956 年) は、早稲田大学名誉教授、文学博士、歌人、書家、美術史家である。雅号は秋艸道人(しゅうそうどうじん)、渾斎(こんさい)。

新潟県新潟市に生まれ、子供の頃から俳句などの文学に親しみ、早稲田大学英文科を卒業した。在学中の恩師は坪内逍遙、ラフカディオ・ハーン。郷里の有恒学舎、早稲田中学、早稲田高等学院、早稲田大学で英語や英文学を教える一方で美術史学研究をすすめ、最終的に東洋美術史を教えるようになった。

このような経歴から會津八一は学者であり、歌 人、書家、美術史家でもあった。またその学問の 特徴は「実物尊重の学風 | であった。

會津は当時新築の図書館と同じ位の大きさの博物館の設置を提唱したが、この旧図書館に會津コ

レクションを中心とした會津八一記念博物館が設置されることとなり、會津八一を 顕彰することとなった。

# **創 杉原千畝レリーフ Relief of Chiune Sugihara**



杉原千畝 (1900-1986 年) は日本 の外交官で、海外では「センポ・ スギハラ」、あるいは「日本のシン ドラー | として尊敬されている。

岐阜県に生まれ、早稲田大学高 等師範部第一部英語科予科(現、 教育学部英語英文学科)に入学し たが、外務省の官費留学生に合 格・採用されたため中退し、後に 外交官となる。

第二次世界大戦中のリトアニア の在カウナス日本領事館で、ナチ ス・ドイツの迫害を受けて逃れて きた多くのユダヤ系難民のため

に、本国外務省の訓令違反を犯して大量のビザ(後に「命のビザ」と言われる)を発給し続け、およそ 6,000 人にのぼる人命を救ったことで知られている。

また、もともと杉原は早稲田時代に早稲田奉仕園(旧友愛学舎)の信交協会にも属し、キリスト教精神に接していたこともこの勇気ある影響していたとされている。

杉原の没後25周年を記念して、稲門杉原千畝顕彰会の寄贈により(協力:イスラエル大使館、ポーランド共和国大使館、リトアニア共和国大使館)、2011(平成23)年に杉原を末永く顕彰することとなった。碑面の書は渡部大語。

# (4) 記念碑 Monuments ※平和祈念碑は《vol.2 大隈庭園編》に掲載。

#### ② 建学の碑 Monument of Educational Ideals



「建学の碑」は「教旨の碑」とも呼ばれ、早稲田大学の教旨を刻んだ碑である。

その内容は以下の3つに 要約され、「三大教旨」とも 言われる。

- ・学問の独立
- ・学問の活用
- ・模節国民の造就

1913 (大正2) 年の創立 30 周年式典のとき、高田 早苗学長の発案で教旨が制 定された。

学問の独立は**在野精神、 反骨の精神**と結び合い、学

問の活用は**進取の精神**と結び合い、模範国民の造就は**「道徳的人格」**に言い換えることができる。なお碑面の書は第4代総長・田中穂積の揮毫による。

## 23 校歌歌碑 Alma Master Monument



早稲田大学校歌 (相馬御 風作詞・東儀鉄笛作曲) は、 1907 (明治 40) 年の創立 25 周年に合わせて制定され、 祝典で披露された。

建学の精神が歌詞に込められている。

作詞の相馬御風は卒業生 であり、作曲の東儀鉄笛は 雅楽家であった。

当時のイギリスやアメリカの大学校歌を参考に作られ、「ワセダ・ワセダ」のエールは坪内逍遙の発案であった。

またこの創立25周年記

念祝典では、同時に大隈銅像(初代)の除幕式、大隈重信の総長就任があり、象徴 的な祝典となった。

なおこの歌碑は作詞をした相馬御風の直筆による。

## (4) 「紺碧の空」記念碑 Monument of "Konpeki - no Sora"



応援歌「紺碧の空」(住治男作詞・古関裕而作曲)は、1931(昭和6)年から歌い始められた応援歌である。慶應の応援歌「若き血」に対抗してのことである。

歌碑は「紺碧の空」が45年 目を迎えたことを記念して、 1976(昭和51)年、大隈会館 前庭に建立された。

現在でこそスポーツは身近なものになっているが、明治期以来、早稲田大学にはスポーツの伝統もあり、「早稲田スポーツ」と言われてき

た。たとえば野球部は1905 (明治38)年にアメリカ遠征を行い(日本初の海外遠征)、 サッカーでは1936 (昭和11)年のベルリンオリンピック日本代表の半分が早稲田の 選手であった。ラグビーの早慶戦・早明戦は現在でもたいへんな人気である。

このような背景から、早稲田大学においては**スポーツの応援文化**もまた発展・成熟していた。

# (25) 「早稲田の栄光」歌碑 Monument of "Waseda no Eiko"



学生歌「早稲田の栄光」(岩 﨑巌作詞・西条八十補助作詞・芥川也寸志作曲)は、早稲田大学創立70周年記念の学生歌として、1952(昭和27)年に多くの応募作品の中から選ばれた。

慶應の学生歌「丘の上」に 匹敵するような、カレッジソ ングを意識していたとも言わ れている。

「早稲田の栄光」は早大生に連綿と歌い継がれ、「校歌」・「紺碧の空」とともに最も愛される学生歌となった。

## 全ての早大生の琴線に触れる、名曲中の名曲である。

早稲田大学創立 125 周年、第二の建学を記念して、2007 (平成 19) 年に建立された。碑面の書は渡部大語。

#### 戸塚球場・安部球場の碑 Monument of Totshika and Abe Baseball Ground

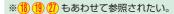


安部球場(戦前は戸塚球場と呼ばれた)の跡地に、早稲田大学創立100周年記念事業として、総合学術情報センターが建設されたが、この碑は当地に安部球場のあったことを記憶に留めるために建立された。

碑文によれば野球部が創設された 1901 (明治 34) 年の翌年にはこの地に野球場が 誕生し、早慶戦、東京六大学野球が行われ、 日本初の夜間照明設備も備えられた。また 学内関係では全学運動会、大学創立 50 周 年記念祝賀会が行われ、1943 (昭和 18) 年 秋には「学徒出陣壮行会」が催され、また

その翌日には「最後の早慶戦」が開催された。碑文は第12代総長・西原春夫による。 文字通り早稲田大学の歴史と共に歩み、全早稲田人に親しまれたグラウンドで あった。

なお傍らには早稲田野球の生みの親である安部磯雄の胸像が建立されている。





# 印息 早慶戦百周年記念碑 100th Monument of "Baseball Sokei-sen"

碑文には、「早稲田大学野球部の挑戦状を以て始まった早慶戦の第3回戦が1904(明治37)年10月30日当地にて挙行された|と記されている。

「この地」とは当時の戸塚球場(後の安部球場)である。

※18 (19) (26) もあわせて参照されたい。

# (8) (7) (18) 早稲田野球の記念碑 4点 Four Monuments of Waseda Baseball



画像左から、

- 27早慶戦百周年記念碑
- 19飛田穂洲胸像
- 18安部磯雄胸像
- 26戸塚球場・安部球場の碑

早稲田野球の聖地を記憶にとどめるための記念碑群である。

# (5) 建物 House

## ②图 旧大隈邸門衛所 Gate Keeper's House of Okuma's Residence



早稲田大学で一番古い建物である。

現在の大隈会館、大隈庭園は、旧大隈邸の敷地内にあり、当時の門衛所がそのまま残されている。

# (6) 記念樹 Memorial Trees

# ① 大正天皇御手植え月桂樹 Memorial Laurel Planted by Emperor Taishou



大正天皇が皇太子時代(東宮・明宮嘉仁親王)の1912(明治45)年5月17日に御手植えになった月桂樹である。東宮は2ヶ月後の7月30日には天皇となっている。

なお銘文には以下のように表記されて いる。

> 御手植樹 今上在東宮時鶴駕 親臨覧講学之状 手植此樹寵焉焉 明治四十五年五 月十七日也 大正二年五月

早稲田大学で学んだ学生の頭に月桂冠 (名誉と栄光)がかかげられるようにとの 意味が込められている、という説もある。

#### ③ 第二世紀の楠 Camphor Tree of The Waseda Second Century



大隈庭園にある「大隈重信手植えの楠」を親木として、その実から苗木を育て、「第二世紀の楠」として、2002年10月に第14代総長奥島孝康により植樹されたものである。

「第二世紀の楠」の由来であるが、もともとの親木は1877 (明治10) 年に創立者大隈重信が熱海より実を持ち帰り伝播したものである。実生からおよそ125年後の今日まで学苑を見守り続けたその親木の実から再び苗木を育成した。これ

には第二世紀の早稲田の発展を願う意がこめられている。

# ③ 六世中村歌右衛門丈遺愛うこん桜 Cherry Tree "Ukon", cherished by deceased Nakamura Utaemon VI



歌舞伎界の名優六世中村 歌右衛門丈(1917-2001年) のご遺族から遺品として寄 贈された名木である。氏は このうこん桜の微妙な花色 を愛でられ、花の咲く時期 には庭で日夜鑑賞していた という。

このうこん桜は鬱金桜、 右近桜とも書かれ、いわゆるソメイヨシノなどの花色とは異なり、クリーム色から黄緑色の八重花を咲かせる珍しい里桜で、寒暖の差や開花時期により微妙に花

色が変化する繊細で優雅な桜である。

六世は五世歌右衛門丈とともに早稲田大学との関わりは深く、坪内逍遙作品上演の関係で演劇博物館に多くの援助があり、またこれを記念して同館1階には六世中村歌右衛門記念特別展示室が常設されている。

# (7) 石像 Stone Images

# ③ 石人 Stone Images of Persons



會津八一が面影橋近くの骨董屋で 買い求めたものであり、当初は東洋 美術陳列室のあった第一学生会館入 口に置かれていたが、学園紛争の影響で同室が閉鎖になった折に旧図書 館(2号館)近くに移設されて現在 に至っている。

ものである。

2号館脇、通用門警備室裏手から 高田図書館、南門への通じる小道の 左右に合計4体が置かれている。

石人は陵墓を護るために置かれた



# 33 法首 (Poksu) Korean Milestones "Pokusu"



村やお寺の里程標。朝鮮中期 (16 世紀) 作。

早稲田大学創立 125 周年を記念して、2007 年 に 千 信一 (Chun, Shin-il) 高麗大学校校友会会長 (世中古石像博物館の設立者) から寄贈された。

#### ③ 濟州童子像 Korean Stone Boys at Cheju Island



濟州島の墓に建てられていた男の 子を象った石像。

朝鮮後期 (19 世紀初~中期) 作で、 童子石は祖先の墓の前に立てられ、 墓を見守る石像のことをいう。

早稲田大学創立 125 周年を記念して、2007 年 に 千 信一 (Chun, Shin-il) 高麗大学校校友会会長 (世中古石像博物館の設立者) から寄贈された。

# 35 石羊 Korean Stone Sheeps



石羊は、李氏朝鮮時代に王陵、墳墓の守護として置かれたもので、文人石、武人石、望柱石、石馬、石虎などと共に、円形の墓を守るように外向きに置かれているものである。

この石羊は英国人のキリスト教および仏教研究家で早稲田大学の名誉講師として教壇(比較宗教学)にも立ったエリザベス・アンナ・ゴルドン夫人(Elizabeth Anna Gordon)が、「ゴルドン文庫」(和漢書扱 519 点、洋書 1,279 部 1,485 冊)として早稲田大学図書館に寄贈した 2,000 点を超える資料の中の 1 つである。

寄贈にあたっては、国籍を問わず朝鮮・清国・インドなどの留学生を受け入れていた早稲田大学に強く共感するものがあったという。

当初は大隈会館に置かれていたが、1925 (大正 14) 年に図書館 (現、會津八一記 念博物館) が 2 号館として新築された時に、教職員入口であった現在の場所に移設 された (現在は高田早苗記念研究図書館 (通称:高田図書館) の入口になっている。)。

# (8) 鉱物展示 Exhibition of Minerals

## 😘 マントルからの手紙 (カンラン岩) A Letter from Upper Mantle



地質は日高変成帯主帯、産地は北海道様似郡様似町字幌満、生成時代は不明であるが、地殻に上昇した時代は中新世(2300万年前頃)である。

## ③ 大陸地殻深部からの手紙 (日高変成岩) A Letter from Deep Continental Crust



北海道日高山脈脊梁部を主 に構成する岩石である。

画像左はミグマタイト質トーナル岩で、高温・高圧の トーナル岩で、高温・質(グラル下深部で地殻の物質(溶) ニュライト)が部分的に溶ー してトーナル岩(花崗岩の一種)が形成された。この変成岩 が上昇する時に途中の変成岩 類を不均一に取り込んで引く マタイト構造(溶けた部分が混ざった構造)を形成した。

画像右は片麻岩で、高温・高圧の下で堆積岩が変成し、

この時生じた鉱物が縞状構造をなしている。

共に地質は日高変成帯主帯、産地は北海道浦河郡浦河町字上杵臼、時代は第三紀 始新世から中新世(5300~1500万年前)である。

### 38 深海底からの手紙 (層状チャート) A Letter from Deep Sea Floor



地質は空知-エゾ帯・空知層群下部・岩清水層で、産地は北海道静内郡静内町東静内字川合、時代は三畳紀後期から白亜紀前期(2.2~1.2億年前)である。

# (9) その他 Other

## 39 鳩の家 Dovecotes



1935 (昭和 10) 年 9 月、旧本部校舎 (現 1 号館) が出来上がった頃、その北側の 半円形広場に四角い尖り屋根の鳩小屋が 円柱の上に据えられていた。これは木造校舎が近代建築に建て替えられてゆく中、塒(ねぐら)を失った鳩たちのために早稲田人によって作られたものであった(『早稲田大学史記要』より)。

現在は1号館裏にあるポンプ小屋敷地 内の、樹木が繁る目立たない場所に移さ れている。